

美しくつかしい、日本をのせて。

Cradle

【クレードル】出羽庄内地域文化情報誌

特集
庄内浜への誘い

庄内憧憬
細谷 亮太

小児科医・聖路加国際病院副院長

7

2012 July/August
TAKE FREE
NO.12



Cradle 7

美しくつかしい、日本をのせて。
「クレードル」出羽庄内地域文化情報誌

2012 July/August
平成24年7月1日発行(隔月奇数月発行) 第2巻6号(通巻12号)

発行/ Cradle事務局 山形県鶴岡市山王町8-15 株式会社 出羽庄内地域デザイン | 電話0235 (64) 0888
制作/ Cradle編集部 山形県酒田市栗田2-59-3 「コアックコーポレーション」 | 電話0234 (41) 0012

FIDEA GROUP



鶴岡市/湯野浜海岸から望んだ鳥海山

波の調べが 心をほどく
夏の庄内

 庄内銀行

今から考えると夢のような日々だった。
1日は十分に長く、海も山も川も美しく、
大人たちは子どもに優しくかった。

私は1948年の正月2日に山形
県西村山郡谷地町で生まれた。現在
の住所でいうと河北町谷地。村山盆
地の真中あたり、最上川沿いの町な
ので、当然海はない。

24歳で医者になり、もう40年も東
京築地明石町にある聖路加国際病院
小児科に籍を置いて働いてきた。そ
の間、研修医2年目に、忙し過ぎて
くたびれて「盲腸（正しくは「虫垂
炎」）にでもなりたいな」と思った
ら、虫垂炎もどきになって入院。手
術をして10日ほど休んだきりで一切
病気とは縁がなく過ごした。

そんな私だが、小学生の頃1、2
年までは病弱で顔色も悪かったらし
く、両親は夏休みになるとすぐに、
祖母にお手伝いさんを1人付けて私
を転地させた。行き先は温海温泉。
祖母父母がひいきにしていた旅館が
あり、海水浴をしたり温海川で鮎を
とったりしながら、お盆までの3週
間ほどを過ごした。今から考えると
夢のような日々だった。1日は十分

に長く、海も山も川も美しく、おと
な達も子どもに優しくかった。
井上陽水の「少年時代」という歌
がある。

夏が過ぎ 風あざみ
誰のあこがれにさまよう
で始まるあの歌を聞くと、口ずさ
むたびに、温海で過ごした10回あま
りの夏を思い出す。

朝市が立つ。それも私たちの泊ま
っている旅館の真前にとりたての魚
を売る店がズラッと並んだ。内陸育
ちの私にとっては珍しい魚がいつぱ
いで、まるで水族館が出張してきて
くれたような嬉しさでワクワクの朝
だった。

なじみの魚屋さんのおばさん、（確
か「よしこ」さんとか言う名前の人
だった）のおすすめのお魚を祖母が
買い、宿の調理場に届けられ、その
夜のおかずになる。なんともぜいた
くな話である。

お手伝いさんたちの慰安旅行も兼
ねていたのだろう。途中で付き添い
の交替があった。私たち兄弟は、朝
のうちに申し訳程度に宿題をやって
バスで釜谷坂海水浴場に出かける。
竹の皮でつまれたおにぎり、それ
に塩鮭と梅干の入った弁当が昼食の
定番だった。

お気に入りの特別追加メニューは
鯨肉の大豆煮の缶詰め。日が傾きか
けるまで泳いで、体が冷えたら砂遊
びをして、そのままの格好にバスタ
オルをひっかけてバスで湯温海に帰
り、お風呂に直行した。

夕食は朝に仕込んだお魚のディナ
ー。本当に庄内浜は私のワンダーラ
ンドだった。

先日、鶴岡に講演に呼ばれた時に
温海の朝市や釜谷坂のことを聞いて
みた。朝市は町はずれの公園に立つ
ようになり、釜谷坂の浜はなくなっ
たとか。よしこさんももう亡くなっ
たのだろう。半世紀も昔の話だ。



ほそや・りょうた／1948年、山形県生まれ。東北大
学医学部卒業。米ネキラス大学MDアンダーソン病院癌
研究所にクリニカルフェローとして勤務。現在、聖路加
国際病院副院長と小児総合医療センター長を兼務。ま
た、ご実家の細谷医院で長年にわたり、出張診療を続け
てきた。著書に『小児病棟の四季』ほか多数。

JASRAC H 1207991-201



白砂青松の奥にそびえる鳥海山。日本海に沈む夕日。
波打ち際で戯れる子どもたち。大いなる地球の営みや自然環境に
包まれた庄内浜は、この夏も人々の訪れを待つかのように、
優しく波を打ち寄せています。

Special
Edition

庄内浜への誘い

庄内浜の特徴を
見ることができる
観光スポット



十六羅漢岩

明治元年、吹浦「海禅寺」の寛海和尚が漁師供養と海上安全を祈り、鳥海山の溶岩体に5年がかりで22体の磨崖仏を刻んだもの。荒波と風雪による磨耗で仏様の表情が年々穏やかになっています。夏にはライトアップされ、毎年7月下旬に「十六羅漢まつり」と海上安全祈願式典が行われます（今年は7月28日18:15～）。また近くの「サンセット十六羅漢」ではお土産物の購入や食事ができます。特に「夕日ラーメン」が人気。

☎NPO法人「遊佐鳥海観光協会」
☎0234-72-5666



写真提供=植松芳平

由良の白山島

白山島は角礫凝灰岩による高さ70m、周囲436mの小島です。海岸から約100m沖にあるため赤い橋が架けられ、橋を渡りきった島の左岸からは、白山島とその周辺の地層が異なることを裏付ける葉っぱの化石が今でも発見できるそう。島内には白山神社や海の釣堀があり、海開き中は八乙女伝説ゆかりの浦まで船旅できる観光遊覧船も運航。由良海水浴場には炊事場などのキャンプ設備も整っています。

☎由良温泉観光協会
☎0235-73-2250

【協力】
植松芳平さん 鶴岡市自然学習交流館「ほとりあ」館長

【参考文献】
●鶴岡の自然編集委員会編『鶴岡の自然』より
「Ⅱ地形のありさま-4・海岸」
●山形応用地質研究会編『山形県地学のガイド』より
「Ⅰ山形県の地学総合解説」
「Ⅱ山形県の地学めぐり-1.庄内地域」



砂浜から岩礁に変わる湯野浜から新潟県境までの約15kmは、海岸に迫る山と黒ずんだ磯岩が連なる「磯浜海岸」です。地殻変動によって褶曲・隆起した地層に、波の力による浸食作用が働き、奇石・奇景を形づくりました。その代表格

が「立岩」と呼ばれる巨大な岩です。地下から玄武岩のマグマがドロドロと噴き出て重なりながら冷却し、そびえ立った「暮坪の立岩」「中波渡の立岩」「鼠ヶ関の弁天島」には、木材と同じ方向に積み重ねたような柱状節理がみられま

この夏、庄内浜を訪れて、大地が語る物語に触れてみませんか。

上／遊佐町吹浦の「釜磯海水浴場」。砂浜のいたるところで湧水が湧き出している様子が見られます。下／高さ51mの「暮坪の立岩」。頂上には天然記念物のマルバシャリンバイが自生しています。



「水の山」といわれるほど湧水が多い鳥海山。そのため昔の人は山を薬師如来にみたて、麓のふたつの川に薬師如来の脇侍である日光菩薩と月光菩薩の名前をつけました。写真に写っている右下の川は月光(がっこう)川。日向(にっこう)川はさらに右側を流れています。



庄内浜の景観にクローズアップ

火山、砂丘、磯浜…
庄内海岸の大地の物語。

広大な砂浜、岩礁が連なる磯浜。庄内は場所によって海岸の風景が異なります。「庄内海岸は、成り立ちが違ってから風景も違う」という説をもとに、庄内海岸の景観をひも解きました。

遙か昔、海だったという庄内平野。その後、長い歳月を経て、入り江は湖沼となり、地盤が隆起して陸となり、現代の姿になりました。約60kmにわたって南北を走る庄内の海岸線には、こうした大地の歴史が刻まれています。

まず、鳥海山が海拔0mからそびえる庄内最北端の吹浦海岸は、火山の噴火で灼熱のマグマが火口から日本海へ一気に流れ、固まってできた「火山海岸」です。度重なる噴火と流れ落ちる溶岩流は鳥海山の秀麗な姿をつくりあげ、その地層が麓に豊富な湧水をもたらしました。砂浜から山の水がコンコンと湧き出る「釜磯海水浴場」もそのひとつです。そこから少し南下すると、海に突き出た溶岩体に22

体の仏像が刻まれた名勝「十六羅漢岩」があります。これだけの規模の磨崖仏は日本海側で唯一といわれ、自然岩と一体となった素朴な仏像群が、日本海の荒波を鎮めるかのように厳かに佇んでいます。火山海岸の南側、月光川から湯野浜までは、かつて入り江だったところ。河川や沿岸流が土砂を運び、海からの強風が浜の砂を陸に運び上げ「砂丘海岸」をつくりました。最大幅は3・2km、最も高いところは「いこいの村庄内」付近の77mで、日本三大砂丘のひとつに数えられています。現在はクロマツ林と砂浜が30km以上にわたって連なり、遠浅の海という地の利を活かした海水浴場が各地に設けられています。

す。同じ立岩でも「三瀬の立岩」と「由良の白山島」は、火山灰の中に硬い安山岩の塊を含んだ角礫凝灰岩。軟らかい火山灰が波で削られ安山岩が残った結果、前3つの立岩とは異なるボコボコとした形を作りました。その他に波の力が生んだ景勝には「海食洞」があります。由良・八乙女浦の洞窟がそのひとつ。出羽三山の開祖・蜂子皇子ゆかりの地としても知られています。また、このような起伏

に富む磯浜には多様な海の生物が生息するため、シーズンになると磯遊びや磯釣りをする人々が集まり、海水浴や夕日を眺める人々とともに、庄内浜を賑わせます。

火山海岸、砂丘海岸、磯浜海岸。それぞれの海岸は人間の想像を遥かに超えた力で作られています。

白砂青松の浜辺は 庄内が誇る文化的財産。

青い海と白い浜、そして緑濃いクロマツ林が30キロメートル以上続く、人工物のほとんどない海岸線。そのかなた、海から立ち上がる秀峰鳥海。その雄大で美しい景観は、庄内の誇るべき財産です。

庄内海岸の景観が描く造形の妙。それは人間が厳しい自然との共生の中で創り上げてきた「文化的景観」とでもいべきものです。

庄内の人にとって砂丘地のクロマツ林は、あることが当たり前の存在です。庄内砂丘が国内有数の巨大な砂丘であることや、酒田の町が起伏のある砂丘の上に立地していることも、あまり意識されることはありません。

庄内地方は冷温帯にあり、本来は落葉広葉樹林が分布します。実際に、昔の砂丘には広葉樹の自然林があり「西山」と呼ばれていましたが、戦乱や製塩のための薪採取などの影響で衰退していったといわれています。また当時は、河川上流の内陸部での伐採や開墾も

は18世紀中頃から本格化します。

しかし、筆舌に尽くしがたい努力で造成された砂防林も、かつての反省を忘れた濫伐や、第二次世界大戦の混乱で、何度も大きく荒廃しました。大規模開発による消失もありました。そして近年は、生活様式の変化による手入れ不足や、松くい虫被害といった危機的状況もあります。庄内砂丘の植林の歴史は、不毛の砂丘に緑がよみがえった一大プロジェクトであると共に、森林の破壊と再生を繰り返した歴史でもあるのです。

こうして幾多の危機に直面しながらも、たゆまぬ努力のもと、庄内砂丘は今も緑豊かな海岸林に覆われています。その植生は、クロマツの単純一斉林から針広混交林へ、そして本来の潜在的植生による森林へと遷移が進み、生物多様性も増してきています。森林は絶

えず「移り変わる存在」なのです。この海岸林が持つ、防風防砂、防潮、保健休養などの公益的機能の発揮により、庄内の暮らしと産業が支えられていることは、庄内の誇る「森づくりの文化」といってよいでしょう。

今、森林の砂漠化は地球規模の環境問題ですが、庄内は森林破壊による砂漠化の経験から、300年の歳月をかけて森林を復活しました。砂丘に緑を取り戻すためにありとあらゆる植物を植え、試行錯誤の結果、海岸砂丘に耐える樹種としてクロマツが見出されたのです。そしてクロマツの砂防植林

遊佐町白木の海岸から眺めた象徴的な一枚。この風景には、かつて飛砂に苦しんだ先人、砂防植林に尽力した先覚者たち、そして今、保全活動に汗を流している人たちの思いが映し出されています。写真提供 梅津勘一



上/酒田市光ヶ丘の国有林「万里の松原」は散策やスポーツなどが楽しめる憩いの森林空間。下/庄内砂丘は砂丘地農業の先駆的な存在。メロンやイチゴ、あさつきなどの名産地です。



今、庄内では、多様な主体の協働による海岸林保全活動が展開されています。この活動は単なる環境保全活動ではなく、綿々と続く森づくりの「文化」を継承し、未来につながる活動でもあるのです。

【文】

梅津勘一さん

山形県庄内総合支庁森林整備課 森づくり推進室長

1957年生まれ、酒田市在住。酒田東高等学校、宇都宮大学農学部林学科卒業。学生時代より、庄内砂丘の海岸林の歴史や保全に関心を抱く。庄内総合支庁では海岸林造成や飛鳥の森林整備、松くい虫対策、海岸林についての地域住民への普及啓発、森林環境教育の支援、住民参加の森づくり運動の展開に取り組んでいる。「NPO庄内海岸のクロマツ林をたたえる会」相談役、日本海岸林学会会員。



クロマツ林を間近に 感じる観光スポット



西浜キャンプ場・コテージ村 マルチドームふれんどりい

遊佐町吹浦の西浜海水浴場の近くにある松林の中のレジャー施設。キャンプ場はトイレ、温水シャワー、炊事場、コインランドリーを完備。テントの貸し出しも可能です。コテージは全6棟で、電化製品や調理器具が充実。食事と宿泊の準備だけで気軽に利用できます。全天候型の多目的スポーツ施設としてマルチドームも併設。いずれも利用には予約が必要です。

☎0234-77-3600



いこいの村庄内

湯野浜海岸に近いレジャー・宿泊施設「いこいの村庄内」は広大な敷地に、屋内外の施設を備えています。本館の西側にある「野鳥の森」を中心とした松林では野鳥ウォッチングができるほか、1800mのジョギングコースや、18ホールのターゲットバードゴルフ(ミニゴルフ)のコースなど、森林浴とスポーツを一緒に楽しむことができます。天気の良い日は、夕暮れに見事な夕日を眺めることもできる憩いのスポットです。

☎0235-76-3211

庄内浜の特徴を
見ることができる
観光スポット



飛島海づり公園

酒田港から39km沖に浮かぶ飛島は、対馬暖流の影響を大きく受けた山形県唯一の離島で、酒田から定期船で約75分。温暖で海水の透明度が高いためシーズンはダイバーや海水浴客、釣り人で賑わいます。「海づり公園」の栈橋を渡ったところにある浮体式海中展望塔は、誰もが気軽に海中観察を楽しめるスポット。海の名風景が見られます。定期船とびしまの運航時間などは定期航路事業所(0234-22-3911)に直接お問い合わせください。

酒田市観光物産課

☎0234-26-5759



鶴岡市立加茂水族館

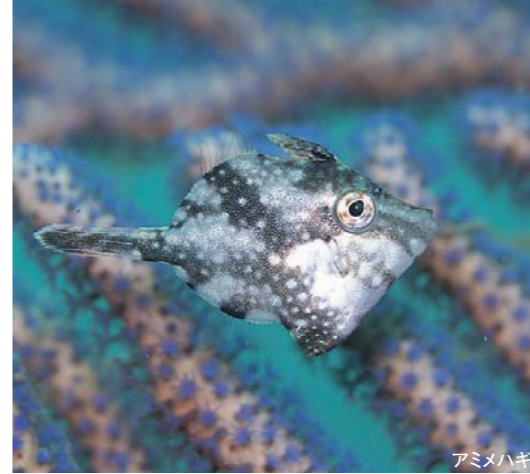
クラゲで有名な水族館。2階ではサメやクロアナゴ、メバルやタコ、カニなど、庄内浜沿岸の生物が展示されています。今年4月には「水族館に展示されているクラゲの種類の数」がギネス世界記録に認定され、名実ともに世界一のクラゲ水族館となりました。また水族館近くの海岸には、ダイビングの人気スポット「荒崎東海岸」や、磯遊びと海水浴が両方楽しめる「加茂レインボービーチ」があります。

酒田市加茂水族館

☎0235-33-3036

- [協力]
●山形県水産試験場
●山形県庄内総合支庁産業経済部水産課

- [参考資料]
●庄内浜文化伝道師認定講習会資料
●鶴岡の自然編集委員会編「鶴岡の自然」より「VI生物のありさま—2・3」
●HP「海と船なるほど豆事典」(公財)日本海事広報協会



アマミハギ



ダンゴウオ



オヤシチュウ



マダラギンボ



ソラスズメダイ



ハコフグ

上/庄内浜で見られる北方系、南方系の魚たち。写真提供=相星克文(アーバンスポーツ代表)



上/アマジの群れと、細長い葉が特徴の海草「アマモ」。海草(うみくさ)は砂場に生育する種子植物で、花を咲かせ、種子が増えます。下/一方、岩場につく胞子植物の海藻はしばしば海の森を形成します。写真の魚はキヌバリ。写真提供=佐藤一(道セカンドリーフ)

海全体が深海の冷たい水と混ざり合うため、北方系の魚や深海魚などがユーモラスな顔を現します。「地形的な点でいうと、水深20mより浅い海底は陸と同じように、南部の鼠ヶ関から加茂までが岩礁域で、北部の湯野浜から吹浦まで

が砂浜域です」。起伏に富んだ岩礁域は、海藻が海の森を形成し、タイやアジなど岩場に住む魚や岩ガキやアワビ、サザエなど貝類のすみかとなっています。その沖合の広大な海中の砂場には、深さに合わせてヒラメやカレイ、ズワ

夏の庄内海岸は、海に沈む夕日の眺め、釣り、海水浴、磯遊びなどを楽しむ人々で賑わいます。その先の水平線の下がどうなっているのか、庄内の海の世界を少し垣間見てみました。

青海原の下に広がる 神秘なる生命の宝庫。

庄内のきらめく海の世界をみる

地球の表面積の7割を占める海。すべての生物を重さで見ると、その9割は海のものともいわれています。春はマダイ、夏は岩ガキ、秋はハタハタ、冬は寒ダラ。季節ごとに水揚げされる多様な庄内浜の魚介からもその一端が語られています。鶴岡市加茂の山形県水産試験場を訪ねて、庄内の海について教えてもらいました。

「まず、庄内浜を含む日本海は、狭くて浅い海であることが特徴です。特に日本海の入口と出口にあたる海峡はその特徴がさらに際立つため、日本海は他の海との海水交換がほとんどなく、唯一、対馬暖流が南から北へ流れるのみです」と研究専門員の石向修一さん。寒流が南下している太平洋側より

も、日本海側に暖かい海の生き物が多く住むのもその影響だろう。「次に庄内浜ですが、沖合の対馬暖流にのってマグロやイナダ、ブリ、サワラなどの回遊魚がやってきました。庄内の夏の味覚、スルメイカもそのひとつです」。

薩南諸島沖で産卵されたスルメイカが日本海を北上してやってくる、それを追いかけてきた他県の漁船や、待ち構えていた庄内の漁船が沖でイカ釣り漁業を始めます。その際に放たれる漁火の風景はまさに庄内の夏の風物詩です。

また回遊魚だけでなく、海水温が最も上昇する夏から秋は、暖流とともに熱帯魚もやってきて、庄内の海に彩りを与えます。反対に海水温が最も下がる冬から春は、

イガニ、紅エビなどが生息しています。他にも海底に海の山ともいえる大きな岩礁がいくつかあり、その周囲はさまざまな海の生物が集まる天然魚礁を形成しています。

近年「庄内芳ガニ」「庄内おぼこサワラ」「紅エビ」など地魚のブランド化を進めている県産業経済部水産課にもお話を伺いました。

「庄内浜の海岸線は距離が短く、入り江や湾がないため、養殖には向いていません。でも多種多様な天然魚が生息し、鮮度の優れた魚介が130種も水揚げされます」。

県では現在、それら庄内の海の幸の美味しさや食文化を広めようと、庄内浜文化伝道師を173名ほど認定し、消費拡大に努めています。遙か原始から生命の源だった海。私たち人間との共存のあり方は、身近な海を知り、その恵みを有難くいただくことにもあるようです。



鼠ヶ関漁船クルージング

カモメの餌付けやイカ干しなどの船上体験もできるクルージング。

鼠ヶ関港
開くわしい日時はお問い合わせください。
7月7日(土)～8月19日(日)
毎週土・日・月曜ほか
大人2000円、小人(4～12歳)1000円
3歳以下無料
鼠ヶ関観光協会 ☎0235-43-3547

鼠ヶ関エリア

ビーチ、人工磯浜、キャンプなどが楽しめるレジャー基地。

鼠ヶ関キャンプ場
7月19日(木)～8月19日(日)
1区画:2000円
炊事棟、温水シャワー、トイレ、管理人事務所
鼠ヶ関市鼠ヶ関
☎0235-43-3547(あつみ観光協会)

イカの一晩干しづくり
8:00～17:00(3～12月)
1人1000円(3枚)
鼠ヶ関市鼠ヶ関乙41-12
☎0235-44-3515
(鼠ヶ関港鮮魚センター)



道の駅「あつみ」しゃりん

食堂、農産物や特産品の販売など。磯には散策路もあり。

5月～8月は8:00～18:00、9月～4月は8:30～17:30
12/21～1/1、毎月最終水曜日(7・8月は営業)
鼠ヶ関市早田字戸ノ浦606
☎0235-44-3211

キラキラの海 夜の三瀬海岸で夜光虫ウォッチング!!

夜の海で幻想的に光るプランクトン「夜光虫(ヤコウチュウ)」を見学。

7月中旬～8月上旬
旅館たじまや向かい「たじまドーム」
20:00以降・30～40分程度
1人800円(大人・子ども共通)
旅館たじまや ☎0235-73-2188

庄内浜の主な観光スポットとイベント情報をご紹介します。
太陽が照りそそぎ、海風がそよぐ海岸めぐりの旅をこの夏、楽しんでみませんか。

約60kmにわたる庄内浜の夏の魅力。見どころマップ。



庄内夕日の丘オートキャンプ場

飛行機の離発着を目前で眺める丘の上のキャンプ場。

今年4月21日(土)～11月4日(日)
1区画:日帰1100円～、宿泊3100円～
入場料:大人400円、子ども200円、幼児無料
炊事場、温水シャワー、サニタリーなど
酒田市浜中糧畑33
☎0234-92-4570
(庄内園芸緑化株式会社)

鶴岡市立加茂水族館

ギネス認定・世界一のクラゲ水族館。
8:30～17:00(7/20～8/20は18:00閉館)
休館日なし
大人800円、小中学生400円、幼児150円、3歳未満無料
鶴岡市今泉字大久保656
☎0235-33-3036



酒田港エリア

庄内浜の幸や情報がそろった総合エリア。飛島への船旅もここから出航。

さかた海鮮市場
菅原鮮魚(1F)
8:00～18:00 休元旦、不定休
☎0234-23-5522
海鮮どんや とびしま(2F)
7:00～9:30、11:30～18:30(L.O.)
休不定
☎0234-26-6111
酒田市船場町2-5-10

みなど市場
9:00～18:00(店舗により異なる)
休水曜日と元旦
酒田市船場町2-5-56
☎0234-26-5758
(酒田市商工観光部商工港湾課港湾空港係)
酒田海洋センター
10:00～17:00 休無料
休月曜日(祝日の場合は開館)、12/31～1/1
酒田市船場町2-5-15
☎0234-26-5642

酒田港クルーズ

定期船「とびしま」で60分の夕陽ウォッチング。

定期船とびしま発着所(酒田市船場町)
7/25(水)、28(土)、8/1(水)は18:30～19:30
8/4(土)、8(水)、11(土)は18:00～19:00
大人1000円、小学生～高校生500円
※要申込
酒田市定期航路事業所
☎0234-22-3911

2012みなどオアシスマツリ

働く船の一般公開や港内見学会、出店など。
酒田港本港地区(船場町緑地、東埠頭)
7月28日(土)9:30～
酒田市商工港湾課
☎0234-26-5758

山形県金峰少年自然の家 分館 海浜自然の家

海と山をフィールドに、豊富な体験メニューを提供。

5月15日(火)～10月20日(土)
カヌーや釣り、登山など山と海での活動のほか、食体験、館内アクティビティなど、目的や年齢に応じて、個人から団体まで幅広く対応。宿泊可。活動内容、プログラムについては下記へご相談を。
遊佐町菅里菅野299
☎0234-77-2166

鳥海温泉郷

鳥海のクロマツ林に湧出する“あったまりの湯”鳥海温泉。山へ、海へ、遊佐をまるごと味わう自然体感エリア。

道の駅鳥海 ふらっと 食堂「ふらっと」 ラーメン「味の駅」
8:30～18:00(8/12～15は8:00～19:00)
鮮魚直売所「元気な浜店」※39ページへ
農産物直売所「ひまわりの会」
特産品販売コーナー
9:00～17:30(8/12～15は9:00～18:00)
ファーストフードコーナー
ベーカリー工房「ほっほ」
8:30～18:00(8/13～16は6:30から営業)
遊佐町菅里菅野308-1
☎0234-71-7222

鳥海温泉「遊楽里(ゆらり)」
1階 展示ホール情報
8月9日(木)～9月30日(日)
ブナの声2012 斎藤政広写真展「鳥海山・山と森の時間」
遊佐町吹浦字西浜2-76
☎0234-77-3711

日帰り温泉 鳥海温泉保養センター「あぼん西浜」

6:00～22:00(21:30受付終了)
大人350円、小学生児童170円
休毎月第2、第4月曜日
遊佐町吹浦字西浜2-70
☎0234-77-3333

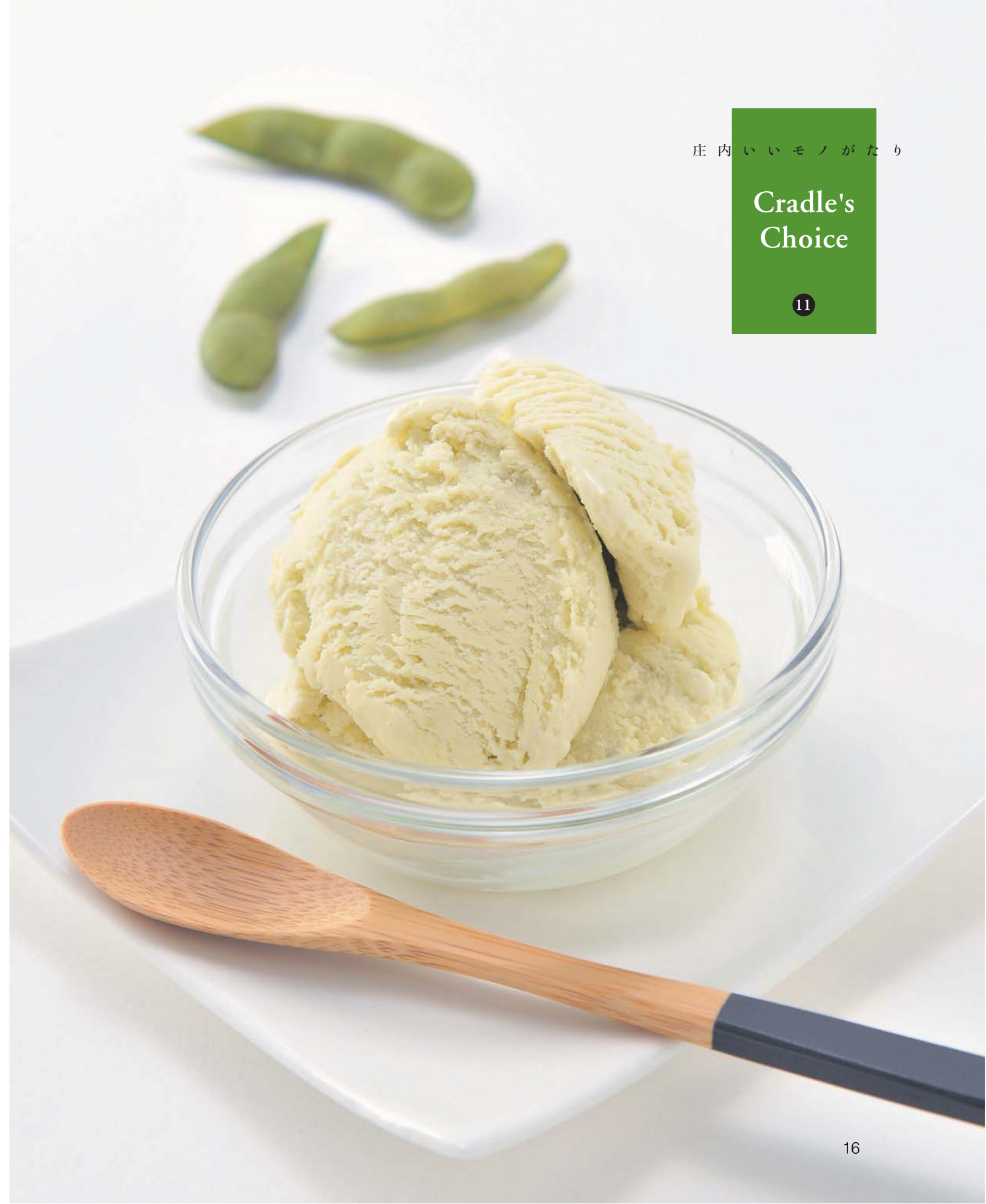
御食事処 とりみ亭

11:00～14:30、16:00～19:00
遊佐町吹浦字西浜2-69
☎0234-77-3334

サンセット十六羅漢

9:00～17:30(8/12～15は9:00～18:00)
休元旦
遊佐町吹浦字西樋7-30
☎0234-77-3330





JA鶴岡の 殿様のだだちゃ豆 アイスクリーム

濃厚なミルクの味わいと
ふんわり広がるだだちゃ豆の風味
クラッシュした豆のつぶつぶ感。
あのアイスがさらに美味しくリニューアル。

江戸時代、枝豆好きの庄内藩の殿様が、地元の豆を持ち寄らせては「これはどこのだだちゃ（お父さん）の豆だ」と聞いたという。その謂れが名前になったと伝えられる「だだちゃ豆」を贅沢に使ったアイスが、この度新しく生まれ変わった。

大きな違いは土台のミルクアイスクリーム。安比高原牧場がこだわりの生乳を使って作るアイスクリームは、ミルクの旨みが濃厚でそれだけでも十分おいしいが、それにクラッシュした鶴岡産だだちゃ豆を加えると、豆の甘み・旨み・香味が際立って独自の味わいとなる。今年3月に幕張メッセで開催された「フーデックスジャパン2012」では、だだちゃ豆のブランド性も付加されて、ご当地アイス・ナンバー1の評価を得た。

そもそもだだちゃ豆は、鶴岡の白山や矢馳地区を中心に昔から育てられてきた、庄内を代表する在来品種だ。長い年月の中で各農家はその年の豆から優れた種を採り、それを育ててまた種を採るという営みをくり返し、比類なき枝豆の殿様へ育てあげた。だが栽培にかかる手間は普通の枝豆の比にならず、そのぶん収穫量もほぼ半分しかない。

だだちゃ豆アイスは希少なその農作物を最大限に活かそうと、JA鶴岡が平成6年に開発。傷などがあって製品にならないものを材料に、豆本来のおいしさと食感を打ち出そうとさまざまに改良を重ねた。今回のリニューアルは、暑さが本番を迎えるこれからの季節、お土産や贈答品などにもぴったりだろう。鶴岡の農家さんたちの弛まぬ努力と愛情で育まれてきた夏の味覚。その結晶ともいえるアイスは、きつとひんやり優しいはず。



長年愛されてきた「だだちゃ豆アイスクリーム」が「殿様のだだちゃ豆アイスクリーム」にリニューアル。それを記念してJA鶴岡のオンラインストア「だだばら」では通常3,000円の8個入りを9/30まで2,700円で提供中。他、だだちゃ豆スイーツにはようかんやロールケーキもある。JA産直館などで販売中。

JA鶴岡営農販売部特販課 ☎0235-29-9850
オンラインストア「だだばら」で検索



大きな音、眩いばかりの光の渦。
花火の歴史と文化が象徴するもの。

幼少の頃、両親に手を引かれて出かけた花火大会。大きな爆発音と眩いばかりの光の渦に、子どもながらとつもない感動を憶えた。

それから二十余年。私は花火写真家となった。花火の歴史や文化を研究

するうち、一つ分かったことがある。

「花火は平和のシンボル」であるということだ。世界にはその余裕もない紛争の地もある。しかし、災害地や戦災復興地では、復興と平和を願う花火が空高くに咲いて、人々を照らしている。